

2025年度 実務経験のある教員等による授業科目一覧<リハビリテーション学科理学療法専攻>

科目	単位数	実務経験のある教員による授業科目
基礎ゼミナールⅢ (PT)	2	本講義は、理学療法士として臨床での実務経験（全教員10年以上）を有する教員が担当する。
基礎ゼミナールⅣ (PT)	2	実務経験あり：全教員が理学療法士として10年以上従事した経験があり、その実務経験を活かして理学療法の実践力と応用力を高めるための講義を行う。
社会学	2	医療機関にて社会福祉士・精神保健福祉士として13年、厚生労働省において相談支援専門官として2年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、社会学に関連する知識や視点等についての授業を行う。
経済学	2	NPOや一般企業での勤務経験、また現在、市民セクターと企業セクターの協働の実践の構築の経験が10年ある。それらの実務経験を活かして、社会福祉の学びが一般企業においてどのように生かされるのかを実践の紹介を交えて講義をおこなう。
日本史	2	国公立小学校、大阪府教育センターにおいて社会科学習を担当した経験があり、その実務経験を活かして日本の歴史に関わる知識を広げ、歴史の見方・考え方についての理解を深める。
保健体育 (B)	2	主として小学校において、教諭及び管理職として業務に従事した経験（37年間）があり、その実務経験を活かして、学校現場や児童・生徒の実態や様子も踏まえながら、より具体的な授業を行う。
体育実技 (A)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (B)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
体育実技 (C)	1	石川：高等専門学校教員（4年半）、西里：高校・大学トレーナー（10年）
オーラルコミュニケーション	2	兵庫県内の公立と私立の中学校・中等教育学校・高等学校において、教諭および主幹教諭として通算40年以上業務に従事した経験がある。この授業では、その実務経験を活かして、実践的な英語力を修得するための授業を行う。
総合教養	2	（福祉創造学科 加藤友野）総合病院などにおいて看護師として23年間業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして終末期に関する法的根拠、心身の変化などの知識、支援方法についての授業を行う。 （福祉栄養学科 伯井朋子）保健所や健康増進施設等で30年公衆栄養業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして「栄養と健康」についての授業を行う。 （リハビリテーション学科 重森健太）地域理学療法分野で25年。
医療キャリアデザイン① (PT)	1	実務経験あり（中俣40年）：病院および地域リハビリテーションにおいて理学療法士としての実務経験があり、対象者との関係づくりとキャリア形成について授業を行う。
臨床心理学 (リ)	2	講師は公認心理師、臨床心理士の有資格者であり、医療機関においては小児科・精神科の心理臨床技術者として、また障害福祉領域においては放課後等デイサービスや就労移行支援、生活・自立訓練等の事業や支援に関わってきた。特に発達障害がある児童においてはOT/ST/PTなどとも連携をしてきた実績がある。
健康増進・予防理学療法学演習①	1	実務経験あり：病院等において理学療法士の業務に25年間従事している。現在は高齢者の健康増進・予防理学療法に関する研究に従事しており、これらの実務経験を生かして授業を行う。
健康増進・予防理学療法学演習②	1	実務経験あり：病院等において理学療法士の業務に25年間従事している。現在は高齢者の健康増進・予防理学療法に関する研究に従事しており、これらの実務経験を生かして授業を行う。
運動学 (PT) ①	1	本科目を担当する全ての教員は病院等の医療施設において理学療法士として10年以上従事した経験があり、その実務経験を活かして身体運動のメカニズムに関する授業を行う。
運動学 (PT) ②	1	本科目を担当する全ての教員は病院等の医療施設において理学療法士として10年以上従事した経験があり、その実務経験を活かして身体運動のメカニズムに関する授業を行う。
内科学・生活習慣病	2	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして内科学と生活習慣病についての授業を行う。
神経内科学	1	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして神経内科学についての授業を行う。
高次脳機能障害学演習 (PT・OT)	1	作業療法士免許と臨床の実務経験を有する教員（実務経験18年）、言語聴覚士免許と臨床の実務経験を有する教員（実務経験12年）が、学修内容（知識や技能）の臨床場面での活用や応用を含めて講義する。
救急医療	1	担当者は医療施設等において、医師として、作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。
日常生活動作	1	実務経験あり（25年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして日常生活動作についての授業を行う。

リハビリテーション概論	2	実務経験あり（25年）：病院、施設において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かしてリハビリテーション概論についての授業を行う。
薬理学（り）	2	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして薬理学についての授業を行う。
病理学	1	この科目の担当教員は実務経験者である。
生活支援技術演習①	1	実務経験あり（25年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして日常生活動作についての授業を行う。
生活支援技術演習②	1	実務経験あり（25年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして日常生活動作についての授業を行う。
理学療法概論①	2	実務経験あり（40年）：一般総合病院における経験や地域理学療法（訪問リハビリテーション、介護老人保健施設等）の経験を活かし理学療法全般の役割や概念について授業を行う。
理学療法概論②	2	実務経験あり（40年）：一般総合病院における経験や地域理学療法（訪問リハビリテーション、介護老人保健施設等）の経験を活かし理学療法全般の役割や概念について授業を行う。
臨床運動学（PT）	2	本科目を担当する教員は病院等の医療施設において理学療法士として10年以上従事した経験があり、その経験を活かした臨床的な運動学の指導を行う。
理学療法評価学Ⅲ（神経学的評価）①	1	臨床において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして神経系に障害を有する患者様への検査・測定方法やその意義・目的についての授業を行う。 理学療法士歴 26年
理学療法評価学Ⅲ（神経学的評価）②	1	臨床において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして神経系に障害を有する患者様への検査・測定方法やその意義・目的についての授業を行う。 理学療法士歴 26年
理学療法評価学Ⅳ（画像評価・動作分析の基礎）①	1	病院において理学療法士として25年従事した経験があり、その実務経験を活かして動作分析に関する授業を行う。
理学療法評価学Ⅳ（画像評価・動作分析の基礎）②	1	病院において理学療法士として25年従事した経験があり、その実務経験を活かして動作分析に関する授業を行う。
理学療法臨床学演習Ⅰ（バーベイェント）	1	実務経験あり：病院等において理学療法士として従事した経験（森：25年、有末：18年）を活かし、理学療法プロセスに関する授業を行う。
運動療法学①	1	理学療法士として病院ならびにスポーツ現場に従事した経験を活かし、病態評価ならびに運動療法技術の指導を行う。
運動療法学②	1	理学療法士として病院ならびにスポーツ現場に従事した経験を活かし、病態評価ならびに運動療法技術の指導を行う。
物理療法学Ⅰ（基礎）①	1	病院で理学療法士として従事したことがあり、その経験を活かして講義を行う。 理学療法士歴 26年
物理療法学Ⅰ（基礎）②	1	病院で理学療法士として従事したことがあり、その経験を活かして講義を行う。 理学療法士歴 26年
物理療法学Ⅱ（臨床的応用）①	1	実務経験あり：病院で理学療法士として勤務した経験が14年間あり、その経験を活かして物理療法をどのように実施するのかについて授業を行う。
物理療法学Ⅱ（臨床的応用）②	1	実務経験あり：病院で理学療法士として勤務した経験が14年間あり、その経験を活かして物理療法をどのように実施するのかについて授業を行う。
義肢装具学（PT）①	1	実務経験あり：病院等において理学療法士として従事した経験を活かし、疾患に応じた義肢装具の適応を含めた授業を行う。 （有末：実務経験18年、福住：実務経験20年）
義肢装具学（PT）②	1	実務経験あり：病院等において理学療法士として従事した経験を活かし、疾患に応じた義肢装具の適応を含めた授業を行う。 （有末：実務経験18年、福住：実務経験20年）
運動器障害理学療法学Ⅰ（基礎）①	1	整形外科疾患のある患者様に対する臨床経験25年以上ある教員が担当
運動器障害理学療法学Ⅰ（基礎）②	1	整形外科疾患のある患者様に対する臨床経験25年以上ある教員が担当
運動器障害理学療法学Ⅱ（臨床的応用）①	1	病院において理学療法士として25年従事した経験があり、その実務経験を活かして運動器障害に対する理学療法についての授業を行う。
運動器障害理学療法学Ⅱ（臨床的応用）②	1	病院において理学療法士として25年従事した経験があり、その実務経験を活かして運動器障害に対する理学療法についての授業を行う。
発達障害理学療法学	1	小児専門医療機関において理学療法士として実務に従事した経験があり、その経験を活かして正常発達や発達障害児（者）の理学療法についての授業を行う。
内部障害理学療法学Ⅰ（呼吸器疾患）①	1	病院において理学療法士として業務に従事した経験（植村：14年、中村：12年）があり、この実務経験を生かして呼吸器理学療法についての授業を行う。
内部障害理学療法学Ⅰ（呼吸器疾患）②	1	病院において理学療法士として業務に従事した経験（植村：14年、中村：12年）があり、この実務経験を生かして呼吸器理学療法についての授業を行う。

内部障害理学療法Ⅱ（心疾患）①	1	・実務経験あり：病院において理学療法士として業務に従事した経験があり（森・中村・中野：10年以上）、その実務経験を生かして内部障害理学療法Ⅱ（心疾患）についての授業を行う。
内部障害理学療法Ⅱ（心疾患）②	1	・実務経験あり：病院において理学療法士として業務に従事した経験があり（森・中村・中野：10年以上）、その実務経験を生かして内部障害理学療法Ⅱ（心疾患）についての授業を行う。
代謝疾患・がん理学療法	1	・病院にて理学療法士として内部障害患者の理学療法に従事した経験（中村・成：10年以上）および内部障害理学療法の教育経験を生かして授業を行う。
理学療法総合演習	1	本科目を担当する全ての教員は病院などにおいて理学療法士として10年以上従事した経験があり、その実務経験を生かして検査測定の実践的な技能について講義する。
回復期リハビリテーション学	1	実務経験あり：脳卒中専門病院（急性期および回復期病棟）で理学療法士として業務に従事した経験が14年間あり、その実務経験を活かして回復期リハビリテーションにおける理学療法士についての授業を行う。
生活環境学演習	1	本科目を担当する教員は病院等の医療施設において理学療法士として10年以上従事した経験があり、地域理学療法（訪問リハビリテーション、高齢者福祉施設等）の実務経験から理学療法における環境整備について授業を行う。
臨床実習Ⅰ（臨床見学実習）	2	本科目は、理学療法士として臨床経験を有する教員が担当する。全教員、理学療法士歴10年以上。 実習先では理学療法士実務経験5年以上の実習指導者により実習が遂行される。
神経障害理学療法Ⅰ（基礎）①	1	病院において理学療法士として従事した経験があり、また現在も週1回は病院業務を行なっている。その経験を活かして脳卒中に対する理学療法について授業を行う。 理学療法士歴 26年
神経障害理学療法Ⅰ（基礎）②	1	病院において理学療法士として従事した経験があり、また現在も週1回は病院業務を行なっている。その経験を活かして脳卒中に対する理学療法について授業を行う。 理学療法士歴 26年
神経障害理学療法Ⅱ（臨床的応用）	1	病院での実務経験を活かして講義を行う。 理学療法士歴 26年
領域別理学療法演習	1	実務経験あり：病院において理学療法士として従事した経験があり、その実務経験を活かして理学療法の実践力と応用力を高めるための講義を行う。実務経験は。全教員10年以上。
地域理学療法①	2	実務経験あり（25年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして地域理学療法について授業を行う。
地域理学療法②	2	実務経験あり（25年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を生かして地域理学療法について授業を行う。
臨床実習Ⅲ（臨床治療実習）	13	本科目は、理学療法士として臨床経験を有する教員が担当する。（全担当教員10年以上の実務経験あり）
臨床実習Ⅳ（保健福祉実習）	1	病院および地域リハビリテーションにおける理学療法士としての経験を活かし、技能指導および実習指導を行う。担当教員は全員10年以上の臨床経験がある。
栄養学（リ）	1	リハビリに取り組むアスリートに対する栄養教育経験のある管理栄養士である教員が、その実務経験を活かして栄養学についての授業を行う。
整形外科学	1	担当者は医療施設において整形外科医として実務経験があり、またスポーツ整形外科、膝関節外科、再生医療を専門としており、その経験を活かして本授業を行う。
小児科学	1	小児科専門医として豊富な臨床経験を持つ
医療安全・感染症学	1	医療機関において内科医師として、36年間診療に従事しており、その経験を活かして実践的な医療安全学や感染症学についての授業を行う。
リハビリテーション医学	1	医療機関におけるリハビリテーションの実務経験を有する教員が、臨床場面での知識の活用や実用的な訓練法を含めて講義する。 全教員は、10年以上の実務経験を有する。
作業療法学	1	医療機関や福祉施設、特別支援教育の領域において作業療法士として約20年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして作業療法の実践についての授業を行う。
画像診断学	1	実務経験あり：医療機関において医師として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして画像診断学についての授業を行う。
医療経済学	1	担当者は医療施設・福祉施設等において作業療法士および部門管理者として30年以上業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして本授業を行う。
運動・応用生理学①	1	臨床医（実務経験35年）または理学療法士（実務経験30年）として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
運動・応用生理学②	1	臨床医（実務経験35年）または理学療法士（実務経験30年）として豊富な臨床経験のある教員により授業を行う。
地域・医療連携論	1	・実務経験あり（重森25年、有久14年）：病院や施設、街づくり事業において理学療法士・作業療法士として業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして授業を行う。

理学療法研究法	1	病院において理学療法士として２５年業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして理学療法研究に関する授業を行う。
理学療法治療技術特論	1	病院において理学療法士として従事した経験（経験年数10年以上）があり、その実務経験を生かした理学療法に関する授業を行う。
スポーツ傷害理学療法学 ①	1	病院において理学療法士として２５年従事した経験があり、その実務経験を活かしてスポーツ外傷・障害に対する理学療法についての授業を行う。
スポーツ傷害理学療法学 ②	1	病院において理学療法士として２５年従事した経験があり、その実務経験を活かしてスポーツ外傷・障害に対する理学療法についての授業を行う。
高齢者理学療法学	1	実務経験あり：病院や地域の介護予防・健康増進事業において理学療法士として25年間従事した経験があり、その実務経験を活かして高齢者を対象とした理学療法の実践に関する授業を行う。
理学療法特論	1	本科目は、全教員が理学療法士として10年以上の臨床経験を有しており、その経験を活かして理学療法に必要な知識を教授する。
理学療法管理学Ⅰ ①	1	実務経験あり：急性期および回復期病院にて理学療法士としての実務経験が14年あり、理学療法における管理学について授業を行う。
理学療法管理学Ⅰ ②	1	実務経験あり：急性期および回復期病院にて理学療法士としての実務経験が14年あり、理学療法における管理学について授業を行う。
理学療法管理学Ⅱ	1	病院でリハビリテーション科管理職として従事したことがあり、その経験を活かして講義を行う。 理学療法士歴 26年
解剖学演習（PT・OT）①	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験(25年) があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）②	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（２５年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
解剖学演習（PT・OT）③	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（２５年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
基礎解剖学演習（PT・OT）①	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（25年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
基礎解剖学演習（PT・OT）②	2	実務経験あり（由留木）：病院において理学療法士として従事した経験（２５年）があり、その実務経験を活かして解剖学に関する授業を行う。
理学療法評価学Ⅰ	2	実務経験豊富な複数の教員で講義、演習を行うため基礎的な技能に加え、臨床的な思考、視点から指導する。
理学療法評価学Ⅱ（筋機能）①	2	実務経験あり：病院において理学療法士として従事した経験（全教員１０年以上）があり、その実務経験を活かして理学療法評価学（特に筋力測定）に関する授業を行う。
理学療法評価学Ⅱ（筋機能）②	2	実務経験あり：病院において理学療法士として従事した経験（全教員１０年以上）があり、その実務経験を活かして理学療法評価学（特に筋力測定）に関する授業を行う。
理学療法臨床学演習Ⅱ（模擬患者）	2	実務経験あり(全担当教員10年以上)：病院、地域リハビリテーションにおいて理学療法士として従事した経験を活かし、理学療法プロセスに関する授業を行う。